

平成 23 年度麻布大学同窓会岩手県支部総会・研修会開催報告

岩手県支部の平成 23 年度総会・研修会が去る 12 月 17 日、盛岡市つなぎ温泉の「愛真館」にて開催され、盛会裏に終了したことをご報告いたします。

また、全国の同窓会関係者の皆様方には、本年 3 月に発生した東日本大震災により被災した本県に対し、同窓会本部より義援金を頂き、本紙を通じて、お礼申し上げます。

さて、今年度は、大学から、日頃より大変お世話になっている同窓会の濱村事務局長にご出席を賜り、大学の懐かしい写真とともに現状までの変遷や、同窓会の現状などについて、詳細にお話をいただきました。今年は、東日本大震災津波・地震が本県に未曾有の被害をもたらし、まだ傷跡が多く残っている中で、大学の歴史の変遷が今後の本県の復興への期待と重なったご報告となり、濱村事務局長にはあらためて感謝申し上げます。

また、恒例となっている研修会においては、「3・11 東日本大震災」と題して、野澤会長、田口副会長のほか、大槌町で被災された徳田氏から、それぞれのお立場で大惨事を通して率直に感じた、悲しみ、怒り、そして絆などについて貴重なお話をいただき、あらためてその怖さについて再認識させられました。

今回の総会は、忘年会シーズンとも重なり少数の出席者となることを懸念していたものの、例年より数名多い出席者となり安堵したところですが、まだまだ出席者は少なくさびしい限りです。こういった中でも、会員の皆さんと夜遅くまで、3・11 の悲惨な出来事を顧みながら、早期復興に思いを寄せるとともに、今般、同窓会本部が講じた被災者対応について思い思いに感じることなど話し合い、今後の同窓会運営に期待する皆さんの熱き想いを夜遅くまで語り合うことができ、思い出に残る支部総会ではなかったかと思っています。

(事務局：渡辺 亨 昭 59 卒)

